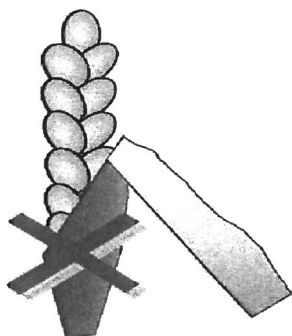


秋まき小麦赤かび病の防除

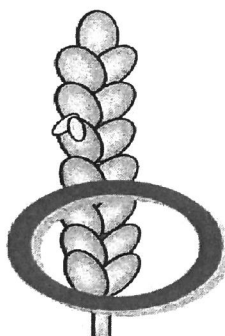
開花始めの時期に最も感染しやすく、降雨の日が多いと多発しやすくなります。1回目の防除時期（開花始め）が特に重要になります。2020年度農作物病害虫防除除草剤使用ガイド及び、農薬ラベルを確認して、防除を行いましょう。

◆ 1 回目の防除時期の目安

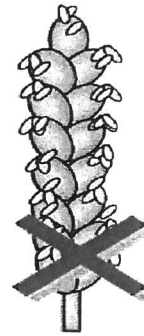
出穂途中



開花始



開花盛期



＜防除適期＞

※感染前の穂に薬剤を十分付着させ、保護することが重要です。

◆ 秋まき小麦赤かび病防除体系(例)

※本年は気温の低い傾向が続いており、赤さび病の病斑はあまり見られませんが、葉枯症多発の懸念があります。

	防除時期	使用薬剤	処理濃度	葉枯症への効果	赤さび病への効果
1回目	開花始め	リベロ水和剤 または シルバキュアフロアブル	いずれも2,000倍		あり
2回目	～7日後	ベフトップジンフロアブル または プライア水和剤	800～1,000倍 1,000～1,500倍	あり	
3回目	～7日後	リベロ水和剤 または シルバキュアフロアブル	いずれも2,000倍		あり

*赤さび病の発生が見られる場合、2回目の防除をバラライカ水和剤 500 倍に切り替える、イントレックスフロアブル 2,000 倍による防除を組み合わせるなど薬剤の変更を検討しましょう。